

1) 大学で研究をされる立場で「子供らしさ」という言葉はどのようなことを指しますか？

「子どもらしさ」とは大人が「このようになってほしい」と思う理想の姿なのか、子供が生まれたままの本来の性質なのか、どちらですか？どちらも指すような印象を持っていますが、国や文化によって違いますか？ 例えば、Youtube Kidsや子供向けアプリは大人が子供に見せたいと思う内容が主で、年齢や好みが様々なすべての子供達が興味を持つことができるとは限らないのかなと思いました。

問いかけ

- 「子ども」って誰だろう。
- 大人が子どもに何を見せたいと考えるかということと、子どもが何を見たいと思うかということは、切り離せるのか。
- 「子どもらしさ」 childlike (子どもを理想化する) とchildish (子どもを未熟なものとして捉える)

子ども観の歴史にかんする本

フィリップ・アリエス『〈子供〉の誕生：アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』（杉山光信・杉山恵美子訳）みすず書房、1980年。

ヒュー・カニンガム『概説子ども観の社会史：ヨーロッパとアメリカにみる教育・福祉・国家』（北本正章訳）新曜社、2013年。

本田和子『子ども100年のエポック：「児童の世紀」から「子どもの権利条約」まで』フレーベル館、2000年。

子ども

生物学的な子ども（ただしそれを明らかにすることも文化的な営み）と、子どもをめぐる文化、制度、物質等の関係性の絡み合い

2) 春休みにカナダに短期留学に行くので、子どもの姿や子どもに見せる世界の違いを調べたいと考えています。

調査方法について、自由研究や論文にまとめるためには、どのような調査をするのが良いと思いますか？

3) 居合わせた人や見つけた具体例を観察する方法は具体的になってしまいい、論文や研究に使うための「データ」にはならないのではないか、と思いましたが、どうですか？

そのようなやり取りや観察を論文に使う場合どのようにまとめまるべきですか？

4) 逆に、これはしなくてもよい、という作業があれば教えてください。

「子どもの姿」 → (実際の子どもを相手にして) やるべきではない
行う際には承諾書、倫理審査等が必要

「子どもに見せる世界」 → 可能性あり、どこに見ることができる？

5) 私は初対面の小さな子供達と話をするのも得意なので、子供の気持ちを理解して代弁しやすいと感じています。

また、私自身も小学校3年生の時にコロナ休校や急に進んだオンライン学習など小学校の体験もまだ記憶しています。今も社会の中では「子ども」なので、その立場だからこそその強みを活かした内容にできると良いのではないかと考えています。

中学生の時期にしかできない内容やテーマについて何かアドバイスがあれば頂きたいです。

- 大人の研究者のインタビューと中学生どうしでインタビューした時に、聞ける話は何が変わるか。
- 何を問いたいか・・・何が問題？何に寄与したい？